

ネギを
つくらない
宇東川

昭和六十一年九月五日号

今では知る人も少なくなりましたが、原田の宇東川地区には「ネギをつくってはいけない」という言い伝えがありました。今回は、その言い伝えをめぐるお話です。

ネギ畑に落ちた氏神様

昔、宇東川地区の氏神様が、白い馬に乗って社殿へ帰ろうとしたとき、馬が何に驚いたのか、急に暴れ出しました。

不意をつかれた氏神様は、握り締めていた手綱てなづなを放して、馬から放り出されてしまいました。

氏神様が落ちたところはネギ畑で、ネギの

汁が目にしみ、氏神様は目をつぶしてしまいました。

そんなことがあつてから、宇東川地区の人たちは、「氏神様に申しわけがない」とネギをつくらなくなり、白い馬も飼わなくなりました。

怒りにふれた強情男

あるとき、強情な男が、「そんなばかな、おれはそんなこと信じないぞ」と言つて、畑にネギをつくりました。

しばらくすると、強情男の家の人が次々に病気になつたり、心配ごとが続くようになり



ました。

さすがの男も「これはネギをつくつたので
氏神様が怒つたのかもしれない」と思い、畑
のネギを全部抜き取ってしまった。

すると病人はたちまち元気になり、不幸な
ことも起こらなくなりました。

ネギは少し抵抗あるね

宇東川町一丁目の秋山只雄さんは「ネギは
つくつちやいけないと昔の人はよく言ってい
ました。気持ちの問題で、私自身も、ネギを
つくるのは少々抵抗があります。でも今は、
話を知っている人が少なくなり、ちらほら見
かけるよ」と語ってくれました。